

平成16年3月期

決算補足資料(連結・単独)

小野薬品工業(株)

【連結情報】

- P. 2・・・連結業績の概況
(P. 1・・・連結業績の状況、セグメント情報、連単倍率、経営指標)
- P. 4・・・売上高
(P. 3・・・主力製品売上高、海外売上高)
- P. 6・・・営業利益、経常利益
(P. 5・・・研究開発費の増加の詳細)
- P. 8・・・特別損益、当期純利益
(P. 7・・・退職給付債務の明細)
- P. 10・・・16年度見通し(売上高、営業利益、経常利益、当期純利益)
(P. 9・・・連結損益の見込、主力製品売上高の見込)
- P. 12・・・連結損益の状況
(P. 11・・・連結キャッシュフローの状況)
- P. 13・・・連結貸借対照表・資産の部
- P. 14・・・連結貸借対照表・負債・少数株主持分及び資本の部
- P. 16・・・減価償却費・設備投資額
(P. 15・・・投資内容)

【単独情報】

- P. 18・・・損益計算書
(P. 17・・・主要な経営指標等の推移、自社品比率)
- P. 19・・・貸借対照表・資産の部
- P. 20・・・貸借対照表・負債資本の部
- P. 21 - 23・・・販売費及び一般管理費・率、売上債権滞留月数、
有価証券・投資有価証券残高内訳、期末従業員数、販売状況、
株式の状況

平成15年度（16年3月期）連結決算

連結業績の状況

(単位:億円、未満切捨表示)

< 損益計算書項目 >	平成14年度	平成15年度 通期予定	平成15年度	予定比	前期比
売上高	1,349	1,363	1,393	+2.3%	+3.3%
営業利益	506	515	545	+5.9%	+7.6%
経常利益	521	528	560	+6.1%	+7.4%
当期純利益	257	296	309	+4.5%	+20.3%

セグメント情報

(1)当期の部門別業績の概況

(単位:百万円)

事業部門	売上高
医薬品事業	139,358
役務サービス他	25

(2)当期の海外売上高の概況

(単位:百万円)

地域	売上高
本邦	136,019
海外	3,364

連単倍率

	平成14年度	平成15年度
(損益計算書関係)		
売上高	1.01	1.01
営業利益	1.02	1.01
経常利益	1.02	1.01
当期純利益	1.01	1.01
(貸借対照表関係)		
総資産	1.01	1.01
株主資本	1.01	1.01

経営指標

(単位:円)

	平成14年度		平成15年度	
	連結決算	単独決算	連結決算	単独決算
一株当たり当期純利益	215.6	212.6	261.8	259.3
一株当たり株主資本	2,664.8	2,645.8	3,033.3	3,013.3
株主資本比率	86.6%	87.3%	86.5%	87.1%

連結業績の概況

- ・売上高は 1,393 億円、前期比では 3.3%増（前期 1,349 億円）
予定比では 2.3%増（予定 1,363 億円）
- ・営業利益は 545 億円、前期比では 7.6%増（前期 506 億円）
予定比では 5.9%増（予定 515 億円）
- ・経常利益は 560 億円、前期比では 7.4%増（前期 521 億円）
予定比では 6.1%増（予定 528 億円）
- ・当期純利益は 309 億円、前期比では 20.3%増（前期 257 億円）
予定比では 4.5%増（予定 296 億円）

主要製品売上高

(単位:億円)

	13年度	14年度	15年度	前期比
キネダック	249	238	228	-10
フオイパン	179	172	164	-7
オノン	235	234	231	-3
オノドライシロップ	31	47	66	+18
オパルモン	131	184	234	+49
カタクロット	116	103	93	-9
プロスタンディン	101	89	84	-5
プロスタンディン500	34	30	28	-2
エフオーワイ	32	27	24	-3
エフオーワイ500	76	70	61	-9
エラスポール		23	35	+11
オノアクト		1	3	+1
主力品計	1,188	1,225	1,256	+31

注射製剤

海外売上高

(単位:億円)

	13年度	14年度	15年度
輸出高	13	15	17
海外特許料収入	2	5	15
海外売上高合計	15	20	33
売上高比率	1.2%	1.5%	2.4%

主要輸出先

アメリカ、韓国、イタリア、台湾、ドイツ、オランダ、イギリスなど

主要輸出品目

エフオーワイ、プレグランディン、プロスタンディン、オノン、オパルモン、フオイパンなど

売上高 1,393 億円 前期比 3.3%増 (前期 1,349 億円)

末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」の売上が前期比 49 億円増(26.8%増)の 234 億円、気管支喘息(小児)治療剤「オノンドライシロップ」の売上が前期比 18 億円増(39.3%増)の 66 億円、全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害に対する世界初の治療剤「注射用エラスポール」の売上が前期比 11 億円増の 35 億円となりました。さらに、一昨年、GSK 社に導出した抗エイズ薬 ONO - 4128 の開発段階が進んだことに伴う一時金収入があったことなどにより、その他主要製品の売上減少を吸収し、売上高は前期比 43 億円増(3.3%増)の 1,393 億円となりました。

製品別の要因

オパルモンが前期比 26.8%増の	234 億円(+ 49 億円)
オノンドライシロップ も前期比 39.3%増の	66 億円(+ 18 億円)
エラスポールの当期売上が前期比 48.9%増の	35 億円(+ 11 億円)
注射製剤 5 品目(エラスポール オアクト除く)で前期比 9.2%減	(29 億円)

活動面からの要因

当本品への理解を深めていただくための講演会、研究会、医師会小グループ説明会を積極的に実施し、市場育成活動に努めました。

当社製品を真に患者さんの治療にお役立ていただくために、当社製品の「Q&A」を中心として、情報提供の正確性向上とデジタル化を図ることを目的とし、12 年度から MR 全員に携帯パソコンを配備し使用しています。

実質的に研究開発費が増加した要因

国内の治験では最優先テーマ(ステイブラ、オノビス、プログリア)を設定し、開発を前倒しさせました。

海外の治験では、プログリアのP、セラクトのPなどの治験に積極的に取り組みました。

営業利益 545 億円 前期比 7.6%増 (前期 506 億円)

売上伸び率 3.3%増に対して営業利益が 7.6%増となった要因

研究開発費は、積極的な国内外での治験の推進（最優先テーマを中心とした開発の前倒し）などに伴い実質的には前期比で大幅に増加したものの、共同開発先 2 社から開発費用の一部払い戻しなどがあったため、前期比 4 億円増の 308 億円にとどまりました。また、売上原価と販売費および一般管理費につきましては、原価低減活動や全社的な経費見直しなどにより費用を抑制しましたので、営業利益は前期比 38 億円増(7.6%増)の 545 億円となりました。

経常利益 560 億円 前期比 7.4%増 (前期 521 億円)

営業外収支が前期並みの 15 億円となったため、前期比 38 億円増(7.4%増)の 560 億円となりました。

退職給付債務の明細

14年3月末現在 (連結) 割引率1.8%適用 (単位: 億円)

	退職金制度	適格年金制度	厚生年金制度	合計
退職給付債務	79	135	329	543
年金資産(時価)		95	137	232
引当金	72	23	131	226
積立不足額	7	17	61	85

上記の数理差異85億円を含め、14年度に下記の処理を行いました。

(1) 厚生年金基金の代行部分の返上に伴う特別利益

14年7月に代行部分の返上の認可を受け、14年度の特別利益として厚生年金基金の代行部分返上による退職給付債務の軽減が131億円ありましたが、一方で代行部分の退職給付債務の43億円も同時に償却したため、131億円から43億円を差し引いた88億円を特別利益に計上。

(2) 退職給付債務における特別損失

直近5年間の10年国債の平均利回りが1.72%であったことから、割引率を従来の2.5%から1.8%に引き下げた影響額61億円を計上し、また、13年度運用損19億円、死亡率低下等による9億円の債務増(当期発生分4億円増)、14年4月の退職給付制度変更による5億円の債務増(当期発生分)の計93億円(当期発生分8億円と積立不足額85億円)を14年度に一括処理する事とし、代行部分の43億円を減じた51億円を特別損失に計上。

15年3月末現在 (連結) 割引率1.8%適用 (単位: 億円)

	退職金制度	適格年金制度	厚生年金制度	合計
退職給付債務	79	134	123	336
年金資産(時価)		95	52	148
引当金	81	33	52	168
積立不足額	2	5	18	21

上記の数理差異約21億円を特別損失として15年度一年で償却。

16年3月末現在 (連結) 割引率1.4%適用 (単位: 億円)

	退職金制度	適格年金制度	確定給付企業年金制度	合計
退職給付債務	81	145	137	364
年金資産(時価)		108	70	178
引当金	77	36	64	178
積立不足額	3	1	2	6

割引率を従来の1.8%から1.4%に引き下げる影響額22億円を計上するものの、15年度運用益15億円があるので、差し引きして16年度の特別損失は6億円の計上予定。

特別損益 特別損益は約 11 億円の損失で、前期比 21 億円損失が減少

- 1) 特別利益において、前期には厚生年金基金代行返上に伴う退職給付債務負担減少額など 91 億円の計上がありました。当期は投資有価証券売却益など約 10 億円の計上であったため、特別利益は差引で前期比 81 億円の減少となりました。
- 2) 特別損失において、前期には割引率を 2.5%から 1.8%に引き下げたことなどによる退職給付債務償却額および投資有価証券評価損を合計 123 億円計上しましたが、当期は退職給付債務償却額約 21 億円の計上となったため、特別損失は差引で前期比 102 億円の減少となりました。

当期純利益 309 億円 前期比 20.3%増加 (前期 257 億円)

当期に試験研究費税額控除制度が拡充され税負担が 16 億円減少したこともあり、当期純利益は前期比 52 億円増(20.3%増)の 309 億円となりました。

平成16年度 連結決算見通し

連結損益の見込

(単位:億円)

< 損益計算書項目 >	平成14年度	平成15年度	平成16年度 予定	15年度比
売上高	1,349	1,393	1,408	+ 1.0%
営業利益	506	545	546	+ 0.2%
経常利益	521	560	557	- 0.6%
当期純利益	257	309	343	+ 10.9%

主要製品売上高の見込

(単位:億円)

	14年度	15年度	前期比	16年度 予定	15年度比
キネダック	238	228	-10	229	+0
フオイバン	172	164	-7	154	-10
オノン	234	231	-3	232	+0
オンドライシロップ	47	66	+18	80	+13
オパルモン	184	234	+49	264	+30
カタクロット	103	93	-9	88	-5
プロスタンディン	89	84	-5	77	-7
プロスタンディン500	30	28	-2	26	-1
エフオーワイ	27	24	-3	21	-3
エフオーワイ500	70	61	-9	51	-10
エラスポール	23	35	+11	46	+11
オノアクト	1	3	+1	4	+1
主力品計	1,225	1,256	+31	1,275	+20

注射製剤

平成16年度の連結決算業績見通し

売上高 1,408 億円 前期比1.0%増 (前期 1,393 億円)

- ・薬価改定による約3%のダウンに加え後発品への切り替え等によるマイナス影響が想定されますが、オパルモン・オノン関連・エラスポール等既存品の売上拡大が期待できますので1%程度の売上増を計画しています。

営業利益 546 億円 前期比0.2%増 (前期 545 億円)

- ・開発化合物の世界同時開発を成功させるために必要な基礎的研究や国内外での臨床試験の実施などにより、研究開発費は前期比7億円増の316億円を予定しています。

経常利益 557 億円 前期比0.6%減 (前期 560 億円)

- ・営業利益が0.2%の増に対して、経常利益が0.6%の減となる要因
有価証券利息が3億円減少することなどによります。

当期純利益 343 億円 前期比10.9%増(前期 309 億円)

- ・経常利益が0.6%の減に対して、当期純利益が10.9%の増になる要因
投資有価証券売却益35億円を計上すること、退職給付債務償却額が前期比14億円減少すること、外形標準課税導入により約14億円税負担の減少を見込んでいることなどによります。

連結損益の状況

(単位:億円)

< 損益計算書項目 >	14年度	15年度	増減
売上高	1,349	1,393	43
(前期増減率)	1.2%	3.3%	
売上原価	205	201	3
(対売上高比率)	15.2%	14.5%	
販売費・一般管理費	637	647	9
(対売上高比率)	47.3%	46.4%	
内、研究開発費	304	308	4
(対売上高比率)	22.5%	22.2%	
営業利益	506	545	38
(前期増減率)	0.6%	7.6%	
(営業利益率)	37.5%	39.1%	
営業外収益	22	20	1
営業外費用	6	5	1
経常利益	521	560	38
(前期増減率)	0.4%	7.4%	
(経常利益率)	38.6%	40.2%	
特別利益	91	9	81
特別損失	123	20	102
税金等調整前当期純利益	489	549	59
法人税・住民税及び事業税	216	294	78
法人税等調整額	13	56	70
当期純利益	257	309	52
(前期増減率)	13.0%	20.3%	
(当期純利益率)	19.0%	22.2%	

積極的な国内外での治験の推進などに伴い研究開発費が実質的には前期比で大幅に増加したものの、共同開発費の一部払い戻しなどがあったため、前期比4億円増の308億円にとどまりました。

当期の特別損益は約11億円の損失となり前期比で21億円損失が減少しました。

- 1) 特別利益において、前期には厚生年金基金代行返上に伴う退職給付債務負担減少額など91億円の計上がありました。当期は投資有価証券売却益など約10億円の計上であったため、特別利益は差引で前期比81億円の減少となりました。
- 2) 特別損失において、前期には割引率を2.5%から1.8%に引き下げたことなどによる退職給付債務償却額および投資有価証券評価損を合計123億円計上しましたが、当期は退職給付債務償却額約21億円の計上となったため、特別損失は差引で前期比102億円の減少となりました。

また、税金等調整前当期純利益は前期比で59億円増(12.2%増)の549億円となりましたが、当期に試験研究費税額控除制度が拡充され税負担が16億円減少したこともあり、当期純利益は前期比52億円増(20.3%増)の309億円となりました。

連結貸借対照表・資産の部

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減
流動資産	(1,819)	(1,789)	(29)
現金及び預金	164	148	15
受取手形及び売掛金	393	402	9
有価証券	1,094	1,003	90
たな卸資産	92	100	8
繰延税金資産	80	133	52
その他	6	9	2
貸倒引当金	12	9	3
固定資産	(1,807)	(2,340)	(533)
有形固定資産	(597)	(618)	(21)
建物及び構築物	259	316	57
機械装置及び運搬具	35	29	5
土地	226	227	0
建設仮勘定	62	28	33
その他	13	16	2
無形固定資産	(16)	(14)	(1)
投資その他の資産	(1,193)	(1,707)	(514)
投資有価証券	977	1,615	638
繰延税金資産	122	6	115
再評価に係る繰延税金資産	25	25	-
その他	68	59	8
貸倒引当金	0	0	0
資産の部合計	3,626	4,130	503

連結貸借対照表・負債・少数株主持分及び資本の部

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減
負債の部	(467)	(535)	(68)
流動負債	(291)	(348)	(57)
支払手形及び買掛金	68	30	37
未払法人税等	89	179	90
販売促進引当金等	11	12	1
賞与引当金	40	40	0
その他の流動負債	82	85	2
固定負債	(175)	(186)	(10)
長期借入金	1	1	0
退職給付引当金	168	178	10
役員退職給与引当金	6	7	0
少数株主持分	(17)	(20)	(2)
資本の部	(3,140)	(3,574)	(433)
資本金	173	173	
資本剰余金	170	170	
利益剰余金	3,043	3,302	259
土地再評価差額金	36	36	
その他有価証券評価差額金	4	170	175
為替換算調整勘定	0	0	0
自己株式	204	205	1
負債、少数株主持分及び資本合計	3,626	4,130	503

14年度末累計 508万株
15年度末累計 511万株
自己株式を保有。

*【投資内容】

(単位:億円)

	14年度 投資額・実績	15年度 投資額・実績	16年度 投資額・計画
生産設備			
生産機器更新等	20.4	27.0	7.5
研究設備			
研究所土地取得	15.7		
同建設額	33.2		
筑波寮		5.4	
他	3.7	1.8	1.4
営業設備他			
新社屋建設額	28.4	24.1	
他	2.7	5.8	1.9
合計	104.1	64.1	10.8

フジヤマ第7工場は、バイアル凍結乾燥注射剤製造工場として稼働しておりますが、将来的な製品の安定供給体制の確立を図るために、バイアル凍結乾燥注射剤製造ラインをもう一ライン設置し、製造能力を増強することと致しました。増強工事は平成14年8月に着工し、16年11月に本稼働する予定です。

上記投資総額約29億円

14年度支払 9.5億円

15年度支払 17.1億円

16年度最終支払予定 2.6億円

筑波研究所はゲノム創薬と薬物動態に関する研究を行う目的で建設しました。

平成13年10月着工、平成14年12月に竣工し、平成15年4月に開所致しました。

- ・土地の投資総額は約44.5億円で14年度の支払15.7億円が最終支払となります。(面積:約30,000坪)
- ・建設の投資総額は約50.3億円で14年度の支払33.2億円が最終支払となります。(延床面積:約2,600坪)

新社屋は平成13年11月末に着工しており、平成15年9月に業務を開始しました。本社機能を新社屋に移転しましたが、登記上の本社所在地は、当社の発祥の地でもある大阪市中央区道修町2-1-5と致します。

- ・建設の投資総額は約68億円で15年度の支払24.1億円が最終支払となります。(延床面積:約4,300坪)
- ・土地の投資総額は約29.5億円で13年度に支払は済みであります。(面積:約520坪)

減価償却費・設備投資額 (連結決算ベース)

・減価償却費・率

(単位: 億円)

	平成14年度 実績	平成15年度 実績	平成16年度 見込
減価償却費	36.4	38.7	40.9
対売上比率%	2.7%	2.8%	2.9%

・設備投資額

(工事ベース)

(単位: 億円)

	平成14年度 実績	平成15年度 実績	平成16年度 見込
設備投資額	104.1	64.1	10.8

平成15年度 単独決算参考資料

主要な経営指標等の推移

(単位:億円、未満切捨表示)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度 予定
売上高	1,337	1,380	1,395
営業利益	497	538	539
経常利益	512	553	550
当期純利益	253	306	340
一株当たり当期純利益	212.6円	259.3円	288.5円
一株当たり配当金	40円	45円	45円
純資産	3,119	3,551	
総資産	3,574	4,075	
株主資本比率	87.3%	87.1%	
一株当たり株主資本	2,645.8円	3,013.3円	
株主資本当期純利益率ROE%	8.2%	9.2%	

自社品比率

	14年度	15年度	16年度予定
自社品比率	95.8%	95.8%	96.2%

損益計算書

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減
売上高	1,337	1,380	43
売上原価	200	198	1
(売上原価率%)	15.0%	14.4%	
研究開発費	305	308	2
(研究開発費率%)	22.9%	22.3%	
その他販管費	333	335	1
(販管費率%)	25.0%	24.3%	
営業利益	497	538	40
営業外収益	(20)	(19)	(1)
受取利息及び配当金	15	13	1
営業外費用	(5)	(4)	(1)
経常利益	512	553	40
特別利益	(91)	(9)	(81)
投資有価証券売却益	3	5	
厚生年金基金代行部分返上益	88	1	
貸倒引当金戻入益	-	3	
特別損失	(123)	(20)	(102)
退職給付債務過去勤務債務償却	4	-	4
退職給付債務数理計算上の差異償却	46	20	25
投資有価証券評価損	71	-	71
税引前当期純利益	480	542	61
法人税・住民税及び事業税	212	292	
法人税等調整額	14	56	
当期純利益	253	306	52
前期繰越利益	12	12	
当期末処分利益	266	319	

貸借対照表(資産の部)

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減
(資産の部)			
流動資産	(1,789)	(1,763)	(25)
現金・預金	142	131	
受取手形	276	7	269
売掛金	111	390	+278
有価証券	1,094	1,003	
たな卸資産	89	99	
繰延税金資産	79	132	
その他	7	9	
貸倒引当金	12	9	
固定資産	(1,785)	(2,312)	(526)
有形固定資産	(583)	(603)	(19)
建物	244	298	
機械・装置	31	24	
土地	224	227	
建設仮勘定	61	28	
その他	22	24	
無形固定資産	(16)	(14)	
投資その他の資産	(1,185)	(1,694)	(508)
投資有価証券	964	1,599	
繰延税金資産	121	6	
再評価に係る繰延税金資産	25	25	
その他	74	62	
資産合計	3,574	4,075	501

回収方法を手形から振込へ変更したためです。

貸借対照表(負債資本の部)

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減
(負債の部)			
流動負債	(282)	(340)	(57)
支払手形	1	3	
買掛金	19	21	
一年以内に返済すべき長期借入金	0	0	
未払法人税等	87	179	
未払消費税等	9	16	
未払費用	53	41	
賞与引当金	38	39	
返品調整引当金	0	0	
売上割引引当金	6	7	
販売促進引当金	4	4	
設備関係支払手形	41	0	
その他	18	26	
固定負債	(172)	(184)	(11)
長期借入金	1	1	
退職給付引当金	165	176	
役員退職給与引当金	6	6	
負債合計	455	524	69
(資本の部)			
資本金	173	173	
資本剰余金			
資本準備金	170	170	
資本剰余金合計	170	170	
利益剰余金			
利益準備金	43	43	
任意積立金	2,712	2,918	
当期末処分利益	266	319	
利益剰余金合計	3,022	3,280	258
土地再評価差額金	36	36	
その他有価証券評価差額金	5	169	174
自己株式	204	205	1
資本合計	3,119	3,551	432
負債・資本合計	3,574	4,075	501

14年度末累計 504万株

15年度末累計 507万株

自己株式を金庫株として保有。

取得した年度及び株数

13年度	253万株
14年度	251万株
15年度	3万株

販売費及び一般管理費・率

(単位：億円)

内 訳	平成14年度 実績	平成15年度 実績	平成16年度 見込
販 売 費 対売比率 %	115 8.7	112 8.1	107 7.7
研 究 開 発 費 対売比率 %	305 22.9	308 22.3	316 22.7
そ の 他 対売比率 %	217 16.3	223 16.1	232 16.7
合 計 対売比率 %	639 47.8	643 46.6	656 47.0

売上債権滞留月数

	平成14年度 実績	平成15年度 実績
売上債権滞留月数	3.5	3.5

有価証券・投資有価証券残高内訳

(単位：億円)

平成15年度

有価証券

1年以内償還債券 641

MMF 362

合計 1,003

投資有価証券

債券 806

株式 661

その他 131

合計 1,599

期末従業員数

	平成14年度 期末	平成15年度 期末
期末従業員数(人)	2,416	2,448

販売状況

(単位：百万円)

品目 \ 期別	平成14年度 実績	平成15年度 実績
循環呼吸器系薬剤 比率 %	80,794 60.4	85,694 62.1
消化器系薬剤 比率 %	21,578 16.1	20,455 14.8
代謝性薬剤及び ビタミン剤 比率 %	23,882 17.9	22,869 16.6
化学療法剤・ホル モン剤他 比率 %	1,607 1.2	1,500 1.1
診断用試薬 比率 %	924 0.7	754 0.5
その他の医薬品等 比率 %	4,962 3.7	6,824 4.9
合 計	133,751	138,099

株式の状況 (平成16年3月31日現在)

株式数

1.会社が発行する株式の総数.....	300,000,000株
2.発行済株式の総数.....	122,919,000株

株主数..... 9,813名

大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,620	7.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,030	6.82
ザ・チー・マンハッタン・バンク・イヌエイ・ロンドン	6,306	5.36
ノーザン・トラスト・カンパニー(イブイブシー) サブアカウント・アメリカン・クライアント	5,348	4.55
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・トリ・ティ・ジャステツク アカウント	4,621	3.93
明治安田生命保険相互会社	3,718	3.16
株式会社 鶴 鳴 荘	3,314	2.82
財団法人 小野 奨 学 会	3,285	2.79
ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー	3,112	2.65
株式会社 U F J 銀行	3,073	2.61

(注)上記大株主には、自己株式5,075千株を含めておりません。

株式の分布状況

